小・中学校再編にかかる地区意見交換会（切畑会場）

１ 日時　　令和８年１０月１５日（木）　１９時～２０時１５分

２ 場所　　切畑小学校体育館

３ 参加者　　２２人

４ 事務局　　神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育部長あいさつ（教育長あいさつ代読）

（３）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（４）質疑応答

（５）意見交換

（６）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	①統合小学校Ⅲについては、令和 14 年の開校時に 11 クラスとなる計画ですが、統合先となる上野小学校には、必要な 11 室の教室が確保されているのでしょうか。また、統合中学校Ⅲについても、開校時に 6 クラスとなる計画ですが、統合先となる昭和中学校には、必要な 6 室の教室が確保されているのでしょうか。 ②児童・生徒同士の交流については計画されているとのことですが、統合に向けて、保護者同士が交流できる機会についても、何か検討されているのでしょうか。
事務局	①教室数につきましては、上野小学校は現在、普通教室が各学年 1 学級分の配置となっており、現状では余裕教室がございません。そのため、統合にあたっては改修等を行い、必要な部屋数を確保していく方針で検討しております。一方、昭和中学校につきましては十分な余裕教室がございますので、統合後も受け入れ可能な状態となっております。 ②保護者同士の交流につきましては、子どもたちが同じ学校で共に学ぶにあたり、子ども同士が顔なじみになることと同様に、保護者の皆様同士が顔を知り合っておくことも大変重要であると認識しております。交流会という形式に限らず、顔を合わせる機会の確保について前向きに検討してまいります。
参加者	再編により、上野小学校の規模が大きくなった場合、放課後児童クラブの受け入れ体制はどうなるのでしょうか。児童数が増加した際にも十分に対応できる体制が整えられるのでしょうか。
事務局	放課後児童クラブにつきましては、上野小学校へ統合した場合に 1 か所に集約するのか、あるいは各地区の拠点を残すのかといった詳細な運営体制については、現時点では未定となっております。今後、統合までの準備期間において、定員の状況や各地区の利用ニーズなどを担当課（こども福祉課）と十

	分に協議・連携していきたいと考えおります。
参加者	切畑小学校は将来的に上野小学校、明治小学校と統合する案となっておりますが、切畑小の児童数もすでに 100 人を切っている状況です。学校を維持していくにあたり、まずは段階的な措置として、切畑小・本匠小・直川小・宇目緑豊小といった近隣校同士での統合を第 1 案として検討することはできなかったのでしょうか。それらの学校を合わせれば明治小と同規模となり、学校として維持・継続できるのではないかと考えますが、そうした段階的な案は事前に検討されたのでしょうか。
事務局	検討の経緯におきましては、切畑小・本匠小・直川小・宇目緑豊小の組み合わせによる段階的な統合案は具体化には至りませんでした。理由といたしましては、適正規模の基準（1 学年 20 人以上）を念頭に、開校予定である令和 14 年度の推計児童数を検証した際、切畑小・本匠小・直川小の 1 年生の合計人数が 20 人に達しない見込みであったためです。集団での学びを確保する観点から、弥生地区の 3 校（上野・切畑・明治）と本匠・直川を合わせた現在の枠組みを提案させていただいております。
参加者	小学校の通学基準が 3㎞ 以上とのことですが、仮に上野小に統合された場合、3㎞ 以内の児童は切畑小校区や明治小校区から交通量の多い国道 10 号線を歩いて通学することになるのでしょうか。以前は「できる限り旧郡部・各町村に 1 校は学校を残したい」という方針があったと記憶しておりますが、少子化によりその限界に達したということなのでしょうか。切畑小学校の校舎はまだ十分に使用できる状態であるにもかかわらず、上野小学校を改修してまで統合を急がなければならないほど、教育環境として危機的な状況にあるのか教えていただきたいです。
事務局	通学方法につきましては、原則として市の規定に基づき小学校 3㎞ 以内は徒歩通学となっておりますが、国道 10 号線など交通量が多く危険を伴う通学路の安全性については重大な課題と捉えております。 旧町村に 1 校を残したいという思いは、地域住民の皆様のみならず教育委員会としても持っておりました。しかしながら、佐伯市における少子化の進行スピードは極めて速く、10 年後・15 年後を見据えた際、1 学年数人あるいは複式学級が常態化する学校が増加し、子どもたちが集団の中で多様な意見に触れ、切磋琢磨する学びの環境を維持することが極めて困難になると判断し、今回の再編案を提案させていただいた次第です。

参加者	今回の学校再編に関するアンケート調査は主に保護者向けに実施されたとのことですが、今後、保護者だけでなく地域住民全般を対象としたアンケート調査を実施する予定はあるのでしょうか。
事務局	昨年度実施いたしましたアンケート調査は保護者の方々を対象としたものであり、地域住民の皆様全体へは実施しておりませんでした。他の会場におきましても同様のご要望をいただいており、再編案をお示しした上で地域住民の意向をどのように把握すべきかについて、検討協議会の中で諮り、適切な対応を検討してまいります。
参加者	上野小学校へ児童が集約された場合、児童数が大幅に増加することが予想されます。旧幼稚園の活用は考えているのでしょうか。
事務局	旧幼稚園などの既存施設の利活用につきましては、現時点におきまして具体的な活用案が決定しているわけではございません。
参加者	今回の小・中学校再編計画の最終的な決定時期はいつ頃になるのでしょうか。
事務局	スケジュールにつきましては、当初計画では今年度中（令和 8 年度中）に地区意見交換会等の意見を踏まえて検討協議会で再編基本方針案を取りまとめ、教育委員会へ答申する予定としておりました。しかしながら、各会場で多岐にわたるご意見をいただいており、スケジュールのあり方についても検討協議会で再協議してまいります。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	**発言内容**
参加者	地域の方々や保護者の意見を集約した立場から、切畑地区および近隣地区に関する主な意見や要望を何点かお伝えします。 ①切畑小学校も児童数は減少しているものの、他の旧町村と比較すると極端な減少とまでは言えない状況であり、小規模校として存続させる道はないの

	か。 ②もし統合が避けられない場合、明治小や切畑小の校名・校歌・校訓などがなくなり上野小のものがそのまま使われるのか、それとも対等な統合として校名や校歌等を一新し、新たな小学校としてスタートするのか。 ③直川地区の方からも「学校がなくなるのは大変寂しいが、既存の上野小に通うのではなく、山間部の新しい小学校としてスタートするのであれば気持ちの整理もつきやすい」との声が届いております。 ④放課後児童クラブについて、上野小へ通学することになった場合でも、切畑地区の子どもたちが地元に戻って切畑の児童クラブを利用し続けることは可能なのか。 ⑤スクールバス通学について、小学校の通学距離が 3㎞ 以上の基準に該当する場合、どのエリアからバスが運行されるのか、また切畑の児童クラブを利用する場合の送迎はどうなるのかという懸念です。さらに直川地区の最も遠い地域から切畑を経由して上野小へ通うとなると、朝の乗車時間が非常に長くなり子どもたちの負担が過大になるのではないかと心配しています。
参加者	学校が上野地区へ統合されると、児童のいる家庭や地域活動の重心が上野校区に偏り、切畑地区をはじめとする周辺地域から子どもの姿が消え、地域と子どもたちとの交流や地域の活力そのものが失われてしまうのではないかと危惧しております。切畑、明治、上野など各地区のコミュニティが衰退することなく維持・活性化できるような地域づくりも含めて、総合的に協議していただきたいです。
参加者	上野小学校を改修するのであれば、既存の上野小に合流するという形ではなく、安全性に配慮した新しい校舎を新設し、新たな小学校としてスタートさせてはいかがでしょうか。そうすれば、切畑や明治などから進級・移行する子どもたちも「上野校区へ移る」という疎外感を持たず、全員が新しいスタートとして前向きに受け入れられると思います。子どもたちが安心して学び、親も安心して送り出せる教育環境を整えていただきたいです。
参加者	スクールバスの運行に関して、佐伯市全体でバスやタクシーの運転手不足が深刻化している中で、統合後に新たなスクールバスの運転手を確実に確保できるのか不安があります。現在運行されているコミュニティバス事業と連携・併用する形にすれば、運行ルートを工夫することで地域住民と子どもたちが一緒に乗車でき、車内での世代間交流や見守りの場にもなるのではないでしょうか。

参加者	年内に方針を固めようとするのは対象地域が広く、難しいのではないかと懸念しております。また、既存校舎の改修する場合、新しい環境が整ってから統合するのか、それともプレハブ等の仮設校舎で授業を行いながら進めるのかによって、子どもたちのストレスは大きく異なります。私自身、過去にプレハブ校舎で学校生活を送った経験から、学習環境の変化は子どもの心身に大きな負担となります。統合の時期は、校舎環境が完全に完成した段階に合わせて設定していただきたいです。
参加者	切畑小学校では、地域の高齢者や住民が参加する芋掘りや野菜の植え付けなど、地域と連携した学校行事・体験活動が数多く根付いています。学校が統合された場合、こうした地域ぐるみの行事は継続していただきたいです。高齢者にとっても子どもたちとの触れ合いは大きな生きがいであり、子どもが地域からいなくなることで孤立や活力低下が進むことが心配です。校区コーディネーター等を活用し、統合後も地域住民を巻き込んだ行事や交流を継続できる体制を考えていただきたいです。
参加者	佐伯市の年間出生数が 300 人を割り込むなど急速な少子化が進む現状は理解しております。統合によって環境が大きく変化することになる子どもたちの不安を和らげるため、開校予定の前から、対象となる学校同士での事前交流授業や顔合わせの機会を段階的かつ積極的に設けていただきたいです。
参加者	今後の進め方について、何点か提案・要望をいたします。 ①中学生への意見聴取（アンケート等）の実施です。現在の中学生はリモート学習や ICT の活用にも慣れており、大人とは異なる柔軟な視点を持っています。今回の市内全域での意見交換会を踏まえ、「このような意見が出ているがどう思うか」といった問いかけを中学生に対しても行い、当事者であり地域の一員である子どもたちを地域づくりに参画させていくべきです。 ②コミュニティ・スクールの存続についてです。現在、中学校区単位で推進されているコミュニティ・スクールですが、直川地区などのように小中学校がなくなる地域では、コミュニティ・スクールの枠組みや地域ボランティアの熱意が失われてしまう恐れがあります。学校の有無にかかわらず、地域活動を支える仕組みの維持が必要です。 ③教育委員会単独ではなく市役所全体（地域振興課やコミュニティ創生課等）を巻き込んだ検討体制の確立です。何百年も続いてきた地元の学校がなくなることは、教育問題にとどまらず地域の存亡に関わる大問題です。教育行政だけで完結させるのではなく、まちづくりや地域振興の担当部署と一体

	となって協議すべきです。次回の意見交換会を開催する際には、方針がすべて決定された後ではなく、地域住民や中学生への意向調査の結果、地域振興策も含めた総合的な検討内容を示した上で対話を行っていただきたいです。
参加者	スケジュール案では令和 14 年度に小学校が開校する予定となっておりますが、それまでに在学している児童は途中で学校が変わることになります。慣れ親しんだ校舎から新しい場所へ移ることは、子どもにとって大きな精神的負担となります。児童同士の人間関係の交流だけでなく、統合先の校舎や環境そのものに慣れるための事前交流も取り入れていただきたいです。また、統合の実施が正式に決定した段階から、新入学生等について切畑小ではなく最初から統合先である上野小に入学することを選択できるような「就学指定校の柔軟な選択制度」を設けることはできないでしょうか。集団生活での多様な学びを否定するものではありませんが、子どもたちへの負担が少しでも軽減され、前向きに受け入れられるような制度設計をお願いしたいです。
参加者	私自身、かつて本匠地区の中学校統合を経験いたしました。やはり通い慣れた場所や環境が変わることは子どもにとって大変な経験でしたので、先ほど出された「場所や環境への慣らし」や「子どもへの負担軽減策」については、ぜひ積極的に取り入れていただきたいと強く願っております。